

営農型太陽光発電によるブルーベリー栽培の収入安定化

<概要>

- ・ 事業実施主体：五平山農園 藤江 信一郎（千葉県いすみ市）
- ・ 発電設備：営農型太陽光発電
発電出力 49.5kW、発電電力量 5万3千kWh/年
- ・ 発電設備下部の農地：10a（ブルーベリーを栽培）
- ・ 建設費：約15百万円
- ・ 運転開始時期：平成27年3月

<特徴>

- ・ 移住者からの「地域資源を活かした太陽光発電に取り組まないのはもったいない」との助言がきっかけ。営農型発電によって収入が安定化し、安心して農業を継続できると考えて取組を開始。
- ・ 5種類のブルーベリーやイチジクの栽培をしながら、農家民宿や観光農園を経営。発電設備の下部（10a）のブルーベリーは、平均糖度15度以上（通常、12－13度で良品）、直径平均18mmの粒を揃え、色目もよく高評価。
- ・ 発電設備の設置、運営は同氏が代表を務める（株）いすみ自然エネルギーが実施し、地元金融機関からの融資で資金調達。
- ・ 日陰が生じることで真夏の収穫作業が楽になったほか、乾燥が防げたことによって散水作業が楽になった。ただし、発電設備の支柱によって除草時の作業が煩雑になった面もあった。
- ・ （株）いすみ自然エネルギーが得る年間の売電収入は200万円。近所の農家からは一緒に取り組みたいとの声もある。
- ・ 「若者が安定した収入を得ながら農業で食べていける姿を作りたい」との考えを持っている。



観光客が来訪している様子



栽培中のブルーベリー



発電施設の外観